

第 52 回 愛知県河川整備計画流域委員会 議事要旨

<日光川流域(変更第 2 回)>

日時：平成 27 年 2 月 20 日（金） 14 時 00 分～14 時 30 分

場所：名古屋都市センター14 階 特別会議室

1. 開 会
2. 主催者挨拶
3. 委員長挨拶
4. 議 題

日光川流域(変更第 2 回)

○河川整備計画の変更（耐震について）

5. 質 疑

(委員質問)

全壊家屋何棟とは、流域の関係市町の流域内に限っているのか。流域に少しでもかかっている市町が入っているのか。

(事務局回答)

流域に限ってというわけではなくて、その流域に係る市町の全体の数量を積み上げたものです。

(委員質問)

流域にはどれ位の総資産があるのか。どれぐらいの割合で我々は守っているのかというのが気になる。

(事務局回答)

確率処理の方法が決まっていなくて、B/Cに乘せられませんかと申し上げた。被害のダメージ率が決まれば、どの位の総資産がダメージを受けるかはやり得る余地があるので、一度研究してみる。

(委員質問)

液状化や浸水、津波に対する被害というのは、どのように計算するのか。

(事務局回答)

液状化マップに対して建築物の割合を乗じて被害を算定している。浸水と津波についても浸水深に対する倒壊率で算定している。

(委員質問)

弥富が高く津島が低いなと思ったから、こういう数値の違いが出てくるんだろうなと思う。

(事務局回答)

弥富市のほうが海岸に近いこともあって浸水する面積が大きい。そのため、沿岸部である弥富市のほうが被害が大きい。

(委員質問)

浸水深の分布と資産の分布で決まってくる。

(事務局回答)

そうです。

(委員質問)

洪水と同様に確率処理ができるかというようなことを言われている。

(事務局回答)

地震の発生確率を決めないとB/Cになりませんが、被災地で総被害額というか、ダメージポテンシャルは出るので、何か研究する余地はあると思っている。

(委員質問)

一度の被害は出るが、それが何年分の被害だというようにカウントするところが難しい。

(事務局回答)

この施設対応規模の津波は100年から150年の確率で起こると、確率的にはそうなっていますが、計算にはなかなか乗せられません。

(事務局回答)

伊勢湾台風の発生確率は百年に一回ぐらいのイメージがあるが、やりようがないため困っている。一方で同じ伊勢湾でも、海岸は50分の1と決めている。そこの整理が全国的に進むと同じ土俵で評価ができる。

(事務局回答)

液状化による建物被害について補足すると、防災局が公表した資料の中で建物別・構造別に、例えば軽量S造とか、軽量SP造建物ですとか、兵庫県南部地震における実績によって地表面最大速度による被害率というのが出ている。また、その液状化については液状化による地盤の平均沈下量をメッシュ別に算定し、その沈下量と被害率がグラフ化されて、それに基づき被害量が算定される。

(委員質問)

住民説明会での提示資料のイメージですが、これは日光川水系だけじゃなくて、尾張ブロックの管理河川の地震対策予定箇所全部を網羅しているということだろうと思います。直轄河川も一緒の色を塗ってあるので、一般の方にとってはここら辺はしないのかなと、庄内川とかはしないのかなと。また、名古屋市が耐震対策をしないのかなというふうに取り上げられる可能性もあるので、こちらの責任ある河川区間がどこで、どこをやるということを明示したほうがいい。

6. 閉会

[了]